

私はビキニ事件の事を話すときは、いつも福島第1原発事故の事を考えています。

労災や国賠訴訟に関わるようになって分かったことは、日本という国は被ばくの現実ときちんと向き合わないということです。

労災申請では船員の話を見聞かず、加害者のアメリカのデータを使って健康被害は無かったという。でも沢山の船員が被ばくが原因としか考えられない病気で亡くなっています。

福島原発事故では、「ニコニコ笑っている人には放射能は来ない」と言う医者や「放射能を怖がる心の除染が必要」などと平気でいう物理学者がいました。

私が今心配しているのは汚染水の海洋放出です。

政府は漁業関係者の反対を無視して福島の原発事故汚染水を海洋放出すると発表しました。中学校に送り付けられたチラシによると「処理水は無害」「トリチウムは無害」と中学生に安全をアピールするチラシです。

しかも「汚染水が危険だという誤った情報を広めて、苦しむ人を出さないために」と書かれています。

ビキニの核実験の事実を話すのは誤った情報ですか？こんなチラシを見せられる中学生が可哀想です。

ビキニ核実験の時、日本の科学者たちが世界で初めて海の汚染を調査しています。

その貴重な研究まで無かったことにして、風評被害などという言葉で汚染水を海へ流すことは許せません。

(本の紹介：海の放射能に立ち向かった日本人 ビキニからフクシマへの伝言)

1980年代、高知県に原発誘致の計画が持ち上がった時、死に物狂いの反対運動で阻止してくれた人たちがいます。福島原発事故のあとその人たちに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

室戸岬のジオパークに行ったことがある人は分かると思いますが、室戸は地震のたびに海底が持ち上がって独特の岩が並んでいます。山のてっぺんまで、海底だった所です。

自然の力の偉大さを知っていると、原発の安全基準なんて馬鹿らしくなります。

高知県では南海大地震に備えてあちこちで避難訓練がされていますが、伊方原発が爆発したら高知県も必ず影響があるということと、被ばくへの備えを学ぶことも大切ではないかと考えます。

先月、被ばくで小児甲状腺がんを発症した男女 6 人が東電に損害賠償を求める裁判を起こしました。事故当時 6 才から 16 才で福島県内に住んでいた人たちです。

「差別を受けるのではないかと恐怖を感じ誰にも言えずこの 10 年を過ごしてきました」と語っています。これからは私もこの裁判を応援していきます。

放射能の被害を矮小化することは、被ばく者の人生を否定する事です。

原発も核兵器もなくさないといけないといけません。

そのためにも、高知県の被災船員の人生を沢山のの人に伝える責任を感じます。